

## 利尻島において観察されたムクドリ科3種の記録

佐藤雅彦<sup>1)</sup>・小林伸光<sup>2)</sup>・佐藤里恵<sup>3)</sup>・田牧和広<sup>4)</sup>・小杉和樹<sup>5)</sup>

<sup>1)</sup> 〒097-0311 北海道利尻郡利尻町仙法志字本町 利尻町立博物館

<sup>2)</sup> 〒097-0311 北海道利尻郡利尻町仙法志字本町

<sup>3)</sup> 〒097-0401 北海道利尻郡利尻町杵形字栄浜

<sup>4)</sup> 〒097-0211 北海道利尻郡利尻富士町鬼脇字清川

<sup>5)</sup> 〒097-0401 北海道利尻郡利尻町杵形字富士見町

### Observational Records of Three Starling Species from Rishiri Island

Masahiko SATO<sup>1)</sup>, Nobumitsu KOBAYASHI<sup>2)</sup>, Rie SATO<sup>3)</sup>,  
Kazuhiro TAMAKI<sup>4)</sup> and Kazuki KOSUGI<sup>5)</sup>

<sup>1)</sup>Rishiri Town Museum, Senhoshi, Rishiri Is., Hokkaido, 097-0311 Japan

<sup>2)</sup>Honcho, Senhoshi, Rishiri Is., Hokkaido, 097-0311 Japan

<sup>3)</sup>Takehama, Kutsugata, Rishiri Is., Hokkaido, 097-0401 Japan

<sup>4)</sup>Kiyokawa, Oniwaki, Rishiri Is., Hokkaido, 097-0211 Japan

<sup>5)</sup>Fujimi-cho, Kutsugata, Rishiri Is., Hokkaido, 097-0401 Japan

**Abstract.** Observational records of three starling species, *Sturnus sericeus*, *S. sturnius* and *S. vulgaris*, are reported from Rishiri Island. Among them, one male of Red-billed Starling *S. sericeus* was firstly observed from this island.

これまで利尻島において記録されたムクドリ科はムクドリ *Sturnus cineraceus*, コムクドリ *S. philippensis*, ホシムクドリ *S. vulgaris* (小杉, 2000), そして2005年に新たに記録されたシベリアムクドリ *S. sturnius* (大野・小杉, 2007) の4種であった。筆者らは2008年5月に利尻町仙法志において新たにギンムクドリ *S. sericeus* を確認することができたため、ここに報告する。また1994年から2005年までのホシムクドリの観察, 2008年のシベリアムクドリの観察についても報告する。

#### ギンムクドリ (Fig. 1)

1♂, 利尻町仙法志パークゴルフ場, 2008.v.14, 小林伸光; 1♂, 〃, 2008.v.18, 〃; 〃, 2008.v.19,

小林伸光・佐藤雅彦・佐藤里恵。

ギンムクドリは九州沖縄地方を中心に数少ない冬鳥または旅鳥として記録され(真木・大西, 2000), 北海道においては2006年に礼文島や天売島にて初めて確認された種である(宮本, 2006)。

2008年5月14日11:00頃, 筆者らの一人である小林が利尻町仙法志のパークゴルフ場にて見慣れない鳥を発見した。しかし, 手元に双眼鏡やカメラがなかったため種の判断ができず, その後も5月18日に姿を確認しただけであった。その情報を小林から得た佐藤らが5月19日に再度確認に行ったところ, 1) 白~汚灰色の頭部, 2) 赤褐色の嘴の先端が黒く, 3) 後頸部から胸にかけての輪状の暗



Figures 1-4. Three starling species observed at Rishiri Island. 1: *Sturnus sericeus* (2008.v.19, photo by N. Kobayashi), 2-3: *S. sturnius* (2008.v.19, photo by N. Kobayashi), 4: *S. vulgaris* (2002.iii.24, photo by K. Tamaki).

色部があることなどから、ギンムクドリのオスと判断した。利尻島における本種の観察はこれが初めての記録となった（小杉，2000）。

19日の観察では、本個体の他、その周辺には数羽のムクドリ、そして後述する1羽のシベリアムクドリも見られた。しかし、観察期間中は、ギンムクドリは単独でいることが多く、パークゴルフ場内の外縁部の芝生の上で採餌している姿が度々観察された。観察は悪天候の22日を除き24日まで続けられたが、19日以降は低気圧の移動に伴い雨天が続く、ギンムクドリの姿は20日以降観察されることはなかった。

### シベリアムクドリ (Figs 2-3)

1♂，利尻町仙法志パークゴルフ場，2008.v.19，小林伸光・佐藤里恵；1♂，利尻町仙法志パークゴルフ場，2008.v.20，佐藤雅彦。

筆者らは2008年5月19日に利尻町仙法志パークゴルフ場を訪れ、ムクドリとは明らかに異なる灰白色を呈した2個体の鳥の観察と撮影を行ったところ、1個体は前述のとおりギンムクドリと判断され、もう1個体は、1) 頭頂から後頭にかけて明瞭な黒色斑を持ち、2) 肩羽外弁部が白色を呈し、3) 下尾筒の淡黄色が目立つ、ことなどからシベリアムクドリと判断した。真木・大西（2000）によると、シベリアムクドリの大・中雨覆の羽先は白いとされているが、本個体は単黄色を呈していた。翼は緑色を帯びた黒色であり、後頭部の黒色斑が目立つことなどから本個体はオスと考えられた。本種は2006年利尻島鬼脇において北海道初記録として確認されており（大野・小杉，2007）、2年ぶり2例目の春の飛来となった。

### ホシムクドリ (Fig. 4)

1 U, 利尻富士町鬼脇字金崎, 1994.iv.21, 田牧和広; 1 U, 利尻富士町鴛泊字本泊, 2002.iii.24, 田牧和広; 1 U, 利尻町仙法志パークゴルフ場, 2005.iv.4, 佐藤雅彦.

ホシムクドリは日本各地において数少ない冬鳥として観察されており(真木・大西, 2000), 北海道では迷鳥とされている(藤巻, 2000). 利尻島周辺では, 稚内市下勇知(日本野鳥の会, 1992), 礼文島(大野陽子氏私信: 2008年3月27日, 礼文町船泊にて観察)からの記録がある.

利尻島においては筆者らの一人である小杉によって1987年に確認された冬羽1個体が同島における最初の記録となった(小杉, 1988). それ以降, 筆者らの観察によって上述の3例が同島から確認されているが, その頻度は数年に一度の稀な飛来と言える. 1994年から2005年までに観察された個体はどれもが単独, またはムクドリの群れに混じり1羽のみが確認され, 全体的に紫色を帯びた黒色を呈し, 細かな白斑を後頭部・腹部・背などに顕著に伴ったものであった. 鮮明な写真が残されている2002年の個体では, 顔や喉, 胸などに目立った白斑がなく, 嘴も鮮やかな黄色を呈していることから, 夏羽個体と考えられた.

## 参考文献

- 藤巻裕蔵, 2000. 北海道鳥類目録改訂2版. 帯広畜産大学野生動物管理学研究室. 83 pp.
- 小杉和樹, 1988. 利尻島の鳥. 利尻研究, (7): 43-54.
- 小杉和樹, 2000. 利尻島における月別鳥類出現リスト. 150-155 pp. 寺沢孝毅(編). 北海道鳥の野鳥. 北海道新聞社. 札幌.
- 真木広造・大西敏一, 2000. 日本の野鳥590. 平凡社. 655 pp.
- 宮本誠一郎, 2006. 礼文島におけるギンムクドリとチゴモズの記録. 北海道野鳥だより, (146): 6-7.
- 日本鳥類目録編集委員会, 2000. 日本鳥類目録. 改訂第6版. 日本鳥学会, 京都. 345 pp.
- 日本野鳥の会, 1992. 野鳥情報・観察記録. 1991.8 - 1992.7. *Strix*, 11: 377-382.
- 大野陽子・小杉和樹, 2007. 利尻島において観察されたシベリアムクドリ. 利尻研究, (26): 29-30.
- 高野伸二, 1995. フィールドガイド日本の野鳥・増補版. 日本野鳥の会. 343 pp.